

【ブランド創出型スモールコンセッション】

【分野:スモールコンセッション】【対象施設:観光施設】【事業手法:コンセッション・SIB】

①調査概要

スモールコンセッションの資金調達手段の多様化のためソーシャル・インパクト・ボンド(SIB)を活用。施設のハードだけでなくソフトも含めた一体で開発をし、観光推進や産業活性といった社会課題解決を行う本スキームの有用性を検証する。また、とくに観光推進分野における社会インパクト評価のあり方についても調査を実施する。

②実施方針・フロー

- まちづくり分野におけるSIB導入については、未だ国内での実績は少なく、検討・研究を要する領域。
- 本提案は、マーケティング・ブランディングを本業とする博報堂の経験と知見を活かした、SIB+スモールコンセッションのプロジェクト設計と評価体系をモデル化することが狙い。
- まちづくり手法の内、ハード面ではなく、ソフト面の開発を重視し検証する。

③地方公共団体概要

- 新潟県村上市は、面積1,174.17平方キロメートル、人口57,418人。
- 「瀬波温泉」「鮭の文化」「町屋観光」など、全国に誇る貴重な観光資源があるが、知名度の面では、まだまだ全国的な認知が不足している。
- 本市の観光入込客数の傾向は、ほぼ横ばいで推移、毎年220万人以上の入込みがあるが、過去のピーク時から大きく数値を落としている。

④スキームの概要

- スモールコンセッションの資金調達多様化のためにSIBを活用。成果連動型業務委託を組み込み、効果的なプロジェクトに絞った支援を実施することにより、資金力のない社会的企業等を含む地元企業等の初期費用負担を軽減し、広く活躍の場を提供する。
- 博報堂は、ロジックモデル構築、成果指標設計、社会インパクト計測、及びプロジェクト支援等を主体的に担い、SIBを組成する。SIB投資家としては、政府系銀行や案件所在地の地方銀行等を想定。
- SIB事業は数億程度、期間は5～7年程度を想定。

